

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・7月は参議院選挙の影響もあり、団体客の動きが鈍かったが、8月は羽田便の供給座席数の増加もあり、7月の反動やスポーツ団体の好調な動きを取り込んでいる。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・国内や海外からの観光客の来訪が増えており、景気の上向きを感じる。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・前年の同月や今年の4月ごろと比較して、客の購買意欲が高まっており、実際に契約、購入に至る客も増えている。ただし、要因としては、消費税増税前の駆け込み需要の感が強い。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・当施設の来客数は、3か月前の4月は前年比114.3%であったが、5月は前年比120%、6月は前年比131.3%、そして7月は25日現在で前年比136.4%となっており、4月に比べて20%以上増えている。また、月ごとに上向いている傾向にある。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月に入り来街者数が増加している。特にリュックサックを背負った人が多くみられた。学生は地元の間人だが、一般の方でリュックサックを背負っているのは、道内外からの旅行者がほとんどであるため、一部の業種を除き、飲食、土産、交通、宿泊、産直品等で若干の売上アップがみられた。
			販売量の動き	・北海道経済は景気回復を感じるまで時間がかかるため、現在の段階ではまだ実感が無い。しかし、観光を始めとして、全国を相手にしている業態は、着実に実績を伸ばしている。また、海外からの観光客は、例年であれば、夏場は繁忙期価格のため、数字が落ちるが、今年は増加傾向にある。中国本土、韓国は依然として低調であるが、台湾、香港、タイからの観光客の増加が顕著である。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・はっきり分かるだけの動きではないが、売上が前年比104.6%と伸びている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数がほぼ横ばいであり、客単価も上がっていないほか、選挙のある年にもかかわらず、中元も前年並みであった。セールもマイナス傾向にあるが、秋物の定価品が前年比103%と好調にスタートした。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・全体の来客数が増加しているわけではないが、ハウスクード顧客の買上金額が増加している。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・夏のバーゲンを前倒しして、前月から実施したことによる影響が生じている。ただし、単月としては下向きであるものの、6月～7月の合計でみると、やや上向き傾向にある。特にバーゲンに左右されないデパート需要の食品は継続して上向き傾向にある。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・気温の上昇とともに夏物バーゲンを目的にした客が増えており、来客数の伸びが顕著である。また、催事関連も浴衣を中心に好調を維持している。食料品はギフト需要も重なり、着実に伸長している。暮らしの品も季節商材が大きく伸びている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・大分良い物が売れるようになってきた。7月に入って暑くなったこともあり、販売量、来客数の動きも良い。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・今月は初旬から好天に恵まれたことで、飲料水やアイスクリームなどの夏型商品がけん引し、売上が前年を上回っている。今までと違う傾向として、低価格の雑酒、発泡酒から、高単価のビールに移る動きがみられ好調である。
コンビニ（エリア担当）		来客数の動き	・建築業、観光業を中心に景気の良い話をよく耳にする。	
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候要因もあり、来客数は回復傾向にある。		
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・参議院選挙もあったが、消費者の購買心理が上向いている。夏の気温も上がり、客が街に出かけることが多くなっている。		
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・夏休みに入り、ランチ、ディナーともに好調である。時には外国人が来客数の60%を占める日もあった。月末に大きなイベントがあったが、その観光客がまだ滞在しており、イベント後の利用が多くみられた。最終的には売上が前年から6%の増加となった。		

	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・引き続き台湾等の東南アジアからの外国人観光客が堅調に推移している。国内観光客も個人客を中心に回復傾向にあり、全体として宿泊客数は回復傾向にある。しかし、本州方面からの団体客は伸び悩んでいる。
	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・各週末は製菓、医療関係の講演会、市内近郊で開催されるイベント、スポーツ大会でほぼ100%の稼働であった。平日も国内旅行者、外国人観光客が堅調に推移した。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・4～9月の上期の販売量が前年比101%となっている。徐々に先行予約が増えてきている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・通常、天気の良い日は雨の日と比べてタクシーの利用客は少なくなる。しかし、今年の7月は天気の良い日が多かったにもかかわらず、前年よりもタクシー1台当たりの売上が良くなっている。ただ、乗務員不足でタクシーの稼働が悪くなっているため、会社の売上はほぼ前年並みである。
	タクシー運転手	来客数の動き	・北海道観光による注文やイベント関係での利用が、前年と比べてやや増えてきている。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・天候に恵まれたほか、公共工事の増加もあるため、気持ち的には上向きにある。国会のねじれが解消できたことで、先行きも明るい。
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は参議院選挙、JRの事故、天候不順、ロックバンドのコンサート、競馬開催など、多くの要素があったが、総体的にはプラスとマイナスの要因があり、大きな変化はみられなかった。
	商店街（代表者）	単価の動き	・夏のバーゲンの上り上がりがかつての盛り上がりにならなかったこともあるが、非常に気温が高いため、カットソーや値段の安価な単品物ばかりが動いており、客単価と平均商品単価が前年に比べて低下している。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・世の中の気分は上向きだが、実質的な値上げが進んでいるなか、所得が増えていないため、景気は不透明なままである。
	一般小売店〔酒〕（経営）	販売量の動き	・底を打ってきたように感じているが、なかなか売上が増加するところまでは達していない。
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・来客数は伸びているものの、買上客数が若干マイナス傾向になっており、前月までの勢いがみられなくなっている。
	百貨店（役員）	販売量の動き	・7月は6月に比べて、天候不順の影響で販売量が減っている。地方においては景気回復の流れはみえず、天候やガソリン高など目先の要因で消費者の行動が変わっている。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・7月に入り2週間以上連続して夏日が続いている影響か、夏物の動きがやや上向きとなっている。売上に占める割合が高いメロンが天候の関係で遅れたこと、相場の高騰でうなぎの販売量が伸びなかったことなどもあったが、月末までにはカバーできる見込みである。客単価が前年を1%上回っており、1人当たりの平均買上点数も前年を上回っているが、来客数が前年を0.5%前後下回りそうである。総体的に、ここ数か月は若干の上向き傾向で大きな変化がなく推移している。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・気温が上がったことで、エアコン、白物家電が前年よりも好調に売れている。
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・7月前半に夏日が続いた影響で、エアコンが前年に比べて大きく伸長したが、冷蔵庫、洗濯機が伸び悩み、全体としてはほぼ横ばいの状況である。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3か月前も今月も売上にはそれほど差がないため、景気もさほど変わっていない。
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・受注量、販売量ともに大きな変化がみられない。
	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年から横ばいで推移しているほか、購入商品の単価が下がってきている。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・年金月ではない7月は客の出足がかんばしくない。購買をする月と我慢する月がはっきりしてきている。
	高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・当店で使う材料等が値上がりしている。しかし、商品を値上げしたくても、客の景気が良いとは感じられないため、値上げもできない状態である。高い物の売れない状態が続いているため、常に価格を抑えている状況にある。

	高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・来客数は増えたが、単価が上がらず、例年並みとなった。外出する人が増えて活気が出ているようにも感じるが、売上は増えも減りもしていない。アジア人観光客も増えていると聞だがレストランには直接影響がない。観光地のレストランは、例年並みに繁盛している。	
	高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・来客数は微減傾向にあるが、客単価は上昇しており、景気は若干上向いていることがうかがえる。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・ここ3か月、前年に比べて水準が下がっているような状況にあったが、今月に入って若干持ち直しの傾向が出ており、前年並みに回復している。ただし、まだ不透明な状況に変わりはない。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・競馬開催などの影響で、3か月前と比較して売上が約13.8%の増加となったが、前年との比較ではほぼ横ばいであったため、景気は変わらない。ただ、集計ができていないため、含めなかったが、当地出身のロックバンドのコンサートが27～28日と2日間開かれたため、最終的な売上は伸びているとみられる。	
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・新商品を導入し、大規模に宣伝しているにもかかわらず、来客数が想定よりも少ない。	
	パチンコ店（役員）	それ以外	・現政権の経済対策の効果で一時的に景気は良くなっているように見えるが、消費税増税までの影響とみられる。	
	その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・集客が増えていない。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・売上などの数字は、3か月前との比較では同じような状況で推移しているが、商品の売上構成が、若干ではあるが、高品質、高単価の商品に移行してきている。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・高額品の売上が減少している。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月に関しては、参議院選挙があったため、人の動きが相当悪く、売上も前年の6割であった。	
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・前年と違い、6月下旬から夏のセールをスタートしたため、需要の先取りの影響もあり、7月は厳しい状況にある。ただし、婦人服のパンツ、カットソー関連は前年から5%の増加を維持できている。ただ、全体感として、7月17日にスタートした第2弾のセール以降、大きな伸びがみられない。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・前月は元より、3か月前と比較しても、販売量は3%程度下落している。当月は前年比39.7%であった。	
	衣料品専門店（店長）	競争相手の様子	・月後半になり、販売量が減少している。	
	その他専門店【ガソリンスタンド】（経営者）	単価の動き	・自動車用燃料の価格が乱高下しており、利幅がかなり厳しくなっている。	
	その他専門店【造花】（店長）	お客様の様子	・客の購入量及び購入回数が減少傾向にある。	
	その他サービスの動向を把握できる者【フェリー】（従業員）	来客数の動き	・本州各空港からの直行便が減少したことから、前年と比較して旅客数が減少している。	
	悪くなっている			
企業動向関連 (北海道)	良くなっている			
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅に関連して家具などが動き出した。請負物件も活性化しつつある。
		金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税を控えて、住宅及び建築工事の駆け込み需要が出てきている。
		建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・建築工事では資材の値上がり、労務者不足から工事費が高騰しており、発注者予算と比べて2割程度のかい離が出ている。特に地方の物件では、この傾向が顕著になっている。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・メーカーへの発注が多くなり、先々の需要が供給を上回ることを懸念する話が久しぶりに出てきた。

	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売量の増加傾向が顕著でユーザーからの納期要望にこたえられないケースが出てきている。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・長年続いた閉そく感が払しょくされつつある。建設関連は公共工事の発注が増加しており、コンビニなどの小売店では工事関係者の来店が増加している。観光関連も外国人観光客の増加に加えて、円安により海外から道内に旅行先をシフトする旅行者が増えている。ただし、企業においては、原料や燃料費の値上がり収益を圧迫している。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・道内の開発予算が増加した影響で、当社の扱う商品も販売量が増加している。	
変わらない	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・医薬品、飲料品の本州向け出荷は例年を上回る順調な荷動きであり、6月後半より好調が継続している。関東圏の水不足と猛暑対策の影響とみられる。	
	司法書士	取引先の様子	・円安によるガソリンの高騰、諸物価の値上がりなどの要因により、消費意欲が低下している。消費税増税前の建物新築などの駆け込み需要もあまりみられない。	
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・自動車業界が非常に伸びている。個人消費関連も少しずつ上向きになっている。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・実態として変化はみられない。乱高下を繰り返す燃料価格や原材料費の高止まりなど、固定経費がかさむなか、企業が収益を上げることができる環境にない。	
やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注が落ち込んできている。猛暑のせいと考えられるが、前年以上に落ち込んでいる。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	良く	-	-	
(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材派遣のニーズが底堅く、企業からの求人も増えている。派遣ニーズの増加は企業の業務量の増加と連動しており、企業活動が活発になっているとみられる。求人の増加も、業績拡大に向けた動きととらえられる。しかしながら、企業が求めるスキルは高く、労働者側のスキルアップの努力が足りなければ、派遣においても職に就くことは難しい。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・建築、建設業や介護業界を筆頭に、全業種で求人広告数が前年よりも増加している。通常、春から夏にかけて、求人数が少なくなる傾向にあるが、今年に関しては、微減はしているが、春の求人数がそのまま推移してきている印象である。また、他分野の話題ではあるが、旭川市内において、東南アジア系の観光客が増加している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・住宅関連機器や木材、コンクリート製造などの建築関連の求人が増えている。また、食品製造、加工やそれにともなう物流関連の求人も目立つ。さらに、個人消費の底堅さに加えて、外国人観光客の増加により、観光関連業界全般に活気があり、繁華街を歩く人も久しぶりに増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から19.2%増加し、41か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から16.7%増加し、41か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が若干減少している業種も一部であるものの、全体としては増加傾向にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の増加傾向が継続しており、なかでも観光関連の求人が増加している。首都圏からの観光客が増加しており、宿泊業、飲食サービス業では、中途採用時の賃金の上昇もみられるなど、一部の企業ではあるが、景況感に改善がみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・前年に比べて、積極的な採用が多くみられる。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・旧商店街の繁華街であった場所に、全国チェーンや大手飲食、サービス業の進出が目白押しで、夕方以降の求人が過熱気味になっている。人手不足が顕著になってきている。

	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・ 求人広告の売上が前年比104.3%と当月も前年を上回った。稼ぎ頭の派遣業が微減だったものの、それに続く、運輸、運送、飲食、医療がいずれも20～30%の伸びとなった。そのほかにも、加工製造で60%の増加、土建不動産で40%の増加がみられたが、流通系は30%の減少と大きく落ち込んだ。
	職業安定所 (職員)	雇用形態の様子	・ 6月の新規求人数は前年を5.4%上回った。新規求職者数は前年から10.6%の減少となった。月間有効求人倍率は0.72倍となり、前年の0.64倍を0.08ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち、正社員求人占める割合は44.6%と高く、求人者と求職者の間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ 雇用形態によってばらつきがあるが、全体的に求人数が減っている。
悪くなっている	-	-	-